

沖縄型金型

芽吹く技術

<11>

9月3日、うるま市の県金

活躍する。

型技術研究センターで金型技術者を育成する研修が開講した。「沖縄のものづくり産業の振興を担うという大きな志を取り組んでほしい」。指導に当たる金城盛順のものづくりネットワーク沖縄理事長（同センター長）の激励に、研修生5人は気を引き締め「貢献できる技術を身に付けたい」と意気込みを語った。

研修は機械系技術者としての基礎を共通科目とし、その上にプラスチック成形金型やプレス金型などを指導する。事業を1人でマネジメントする「プロジェクトマネージャ」の課程も用意。さらに金型で作られる製品の機能や設計、その後の成形など全体の生産工程も把握し仕事ができる「コンカレントエンジニア」の育成を目指している。

同センターを中心とした金型やものづくりの人材養成は2009年から実施され、3年間で長期（1年）25人、短期で延べ116人が研修を受けた。うち13人が誘致企業で

「各企業の実践的な技術に触れられ、吸収しようとする意識が自然と高まる」。こう話す研修生の視線の先には、本職の技術者が金型の仕上げを行っていた。

県金型技術研究センターは金型関連企業5社が入居する

人材力

下

3年で延べ141人研修



ポリ塩化ビニールパイプなどを製造する沖水化成を視察する研修生ら＝沖縄市の沖水化成

長屋型の素形材産業向け賃賃工場に併設。センターは最先端の加工機械を整備し、各企業に賃貸するなど製造現場が間に賃貸することも、研修事業の特徴だ。昭和金型工業（静岡県）など入居企業による0円、事業所178社、従業員2336人と全国に比べその

県内製造業の現場を視察する講座を進め、即戦力の人材育成に取り組んでいる。10年の県工業統計調査によると、県内の金属製品製造業は出荷額378億9600万円、

高度技術者育成へ

規模は小さい。一方で、県内は琉球大学や国立沖縄工業高等専門学校、職業能力開発大等学校、工業高校など工業系の学校は充実し、毎年3千人を輩出している。

金城センター長は「現在、国内金型業界は人材の確保、育成が課題となっている。豊富な人材がある沖縄の現状を生かせば、企業誘致を図れる」と力説する。加工精度が1ミクロンという世界で技術習得に時間を要する大垣精工（岐阜県）も、同事業に注目する1社。沖縄工場で研修後の採用を見込んでいる。

同事業が成果を出しつつある中、金城センター長は「県内製造業の活性化には、ものづくりを支える人材育成を続けていくことが非常に大事だ」と強調。若い世代の活躍を期待している。

（謝花史哲）
（水―金曜掲載）